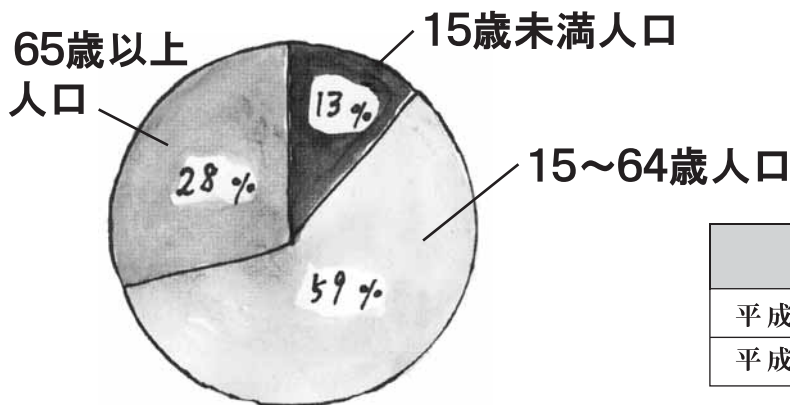


いま見守り
ネットワークが
必要な理由

10年後、20年後のまちの
姿を考えましょう

**滋賀県下で2番目に高齢化率が高く（28%）
15歳未満人口の占める割合は最も低い（13%）**



高島市の一世帯当たりの人員数	
平成17年	3.12人
平成22年	2.90人

高島市の人口（平成22年国勢調査）

人口	男女比		15歳未満	15～64歳	65歳以上	平均年齢
	男性	女性				
52,486人	25,566人	26,920人	6,702人 12.8%	31,098人 59.3%	14,640人 27.9%	47.6歳

人口は平成12年以降10年間で2,965人減少

	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年
高島市	54,369人	55,451人	53,950人	52,486人
滋賀県	1,287,005人	1,342,832人	1,380,361人	1,410,777人

高島市の人口推移（平成7年～22年の国勢調査）

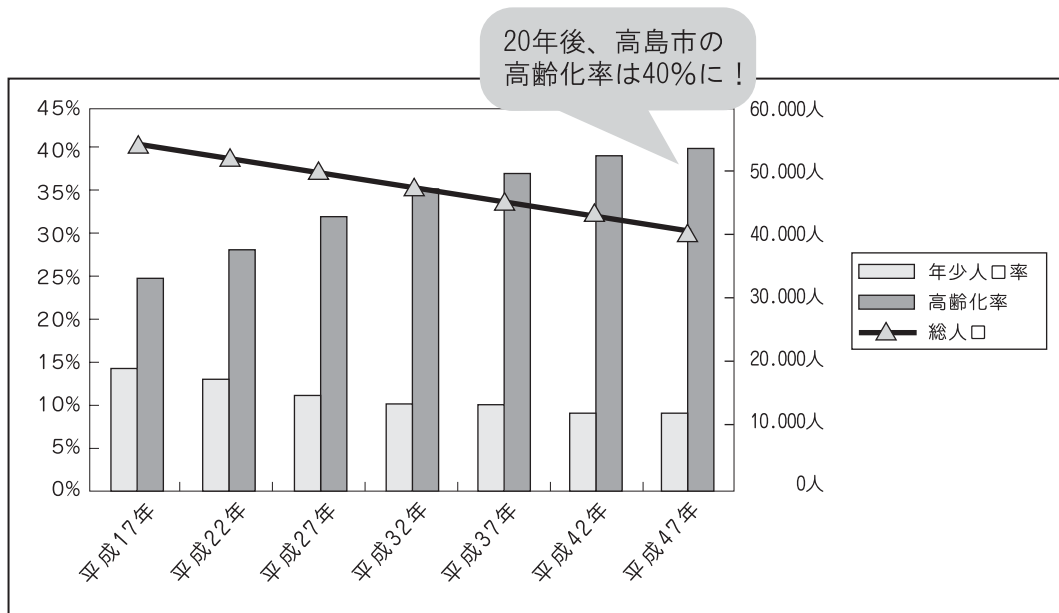
**人口減少、少子高齢化、
単身世帯の増加が
進んでいます。**

高島市は、平成22年におこなわれた国勢調査において、滋賀県でもっとも人口の減少数が大きく、前回調査（平成17年）から、減少率でマイナス2.7%となっています。

また1世帯当たりの人員は前回調査の3.12人から2.90人と減少しており、単身世帯は市内の一般世帯の内、20.9%を占め、実に5軒に1軒がひとり暮らしとなっています。

さらに、15歳未満が占める割合が12.8%と県下で最も低くなっており、人口減少、少子高齢化、単身世帯の増加が急速に進んでいることが、改めて浮き彫りになりました。

20年後、高齢化率約40%、人口は今より約1万人減少



高島市の将来推計人口と年少人口率、高齢化率

	総人口(人)	年少人口	年少人口率	高齢者人口	高齢化率
平成17年	53,950	7,651	14%	13,517	25%
平成22年	52,170	6,708	13%	14,543	28%
平成27年	50,120	5,680	11%	15,940	32%
平成32年	47,749	4,866	10%	16,674	35%
平成37年	45,311	4,308	10%	16,783	37%
平成42年	42,861	3,939	9%	16,649	39%
平成47年	40,364	3,653	9%	16,293	40%

国立社会保障・人口問題研究所のデータによると、人口の減少は今後も続き、今から23年後の平成47年には、高島市の総人口は4万人余り。子どもの数は3,6千人で、人口の1割にも満たず、高齢者人口は全体の4割に達すると予測されます。

全国的に見ても、団塊世代が後期高齢者になる平成37年には、高齢者人口が3千5百万人となり、認知症高齢者数は3.2百万人、高齢者夫婦、ひとり暮らし高齢者の世帯数は、約1千3百万世帯（高齢者世帯の7割）になると言われています。

出典
国立社会保障・人口問題研究所
調査名
日本の市区町村別将来推計人口
データ作成
高島市社会福祉協議会（H20年12月）

高島市地域福祉推進計画の地域福祉目標

「あたたかなつながりを実感できる、みんなが主役のまちづくり」に向けて。



見守りネットワークは大切な取り組みです。

平成22年3月に完成した、高島市地域福祉推進計画の地域福祉目標は、地域のつながりを改めて結び直すために、一人ひとりが地域社会の主役として参加し、お互いを信頼し、互いに支えあい、つながりながら地域づくりを進めていくことを表現しています。

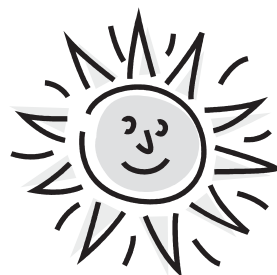
見守りネットワークは、まさに「あたたかなつながりを実感できる」区、自治会の単位でおこなう活動です。本計画では、この見守りネットワークの推進が、今後の高島市の地域福祉を進めるためになくてはならない重要な活動として、推進目標1の重点事業に挙げられています。

また、推進目標3では、

計画づくりで多くの住民、関係者の皆様から出たご意見

- 高齢者の孤独・孤立 高齢者の見守り・生活支援
- 地域と子どもがつながる場づくり
- 登下校の見守り活動
- 障がいや認知症のことを学ぶ場をつくる
- 介護問題（老老介護、認知症介護、男性介護）
- ニーズの把握が困難、SOSを発信してもらえない
- 近隣同士の助け合いへの無関心
- 生活サポーター（お助け隊）の活動を広げよう
- 集落単位での（福祉活動の）リーダー養成
- 近所で過ごす場、誰もが集える場 世代交流の場
- 災害時の高齢者、障がい者等の避難体制づくりを進めよう
- 福祉・防災マップづくり、散歩しながら見守り、傾聴ボランティアによる見守り
- 区でのつながりづくりのためにあいさつ運動
- 地域内で支えあうためのネットワークづくり
- ニート・引きこもり・不登校・虐待への対応
- 気軽に何でも相談できる人、窓口、場の問題
- 専門職との連携ができていない

住民の皆さんによる見守りネットワーク活動と協働する、行政や専門機関の役割を「地域ケアネットワーク」として支えていく方針を明記しています。



推進目標

1 小地域福祉活動ネットワーク

「地域から孤立を無くすつながりづくり」

区・自治会単位の福祉活動の基盤強化を図り、顔の見える小地域で、誰もが安心・安全に暮らせる仕組みづくりを進めます。

普段からお互いを知り合い、助け合い・支え合いができるのは、区・自治会の範囲であり、区・自治会単位での住民福祉活動が活発になることが、隣近所の日常的な見守りや災害時の助け合いなどで、安心して暮らせる地域づくりの基盤と言えます。

地域のつながりが薄れてきたという声が多く聞かれるようになり、その中で心配されるのは、支援が必要な方の孤立の問題です。近隣の助け合い・支え合いを基盤にした、住民福祉活動を進めるための仕組みづくりは、将来にわたって安心して暮らせる地域づくりに必要不可欠と言え、「地域から孤立をなくすつながりづくり」を地域福祉推進の第1の柱とし、各地域の「住民福祉活動計画」と連携して取り組みを進めていきます。

高島市地域福祉推進計画から、見守りネットワークに関連する部分を抜粋したものです。

推進目標

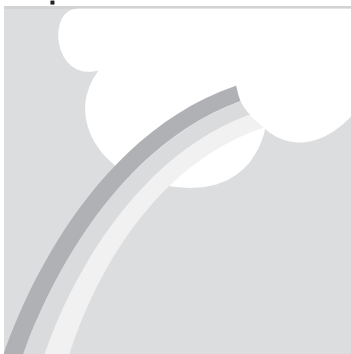
3 地域ケアネットワーク

「地域の暮らしを支えるつながりづくり」

住民と専門職が協働した地域ケアを進め、誰もが住み慣れた地域で、いつまでも暮らし続けるための公民の協力関係づくりを進めます。

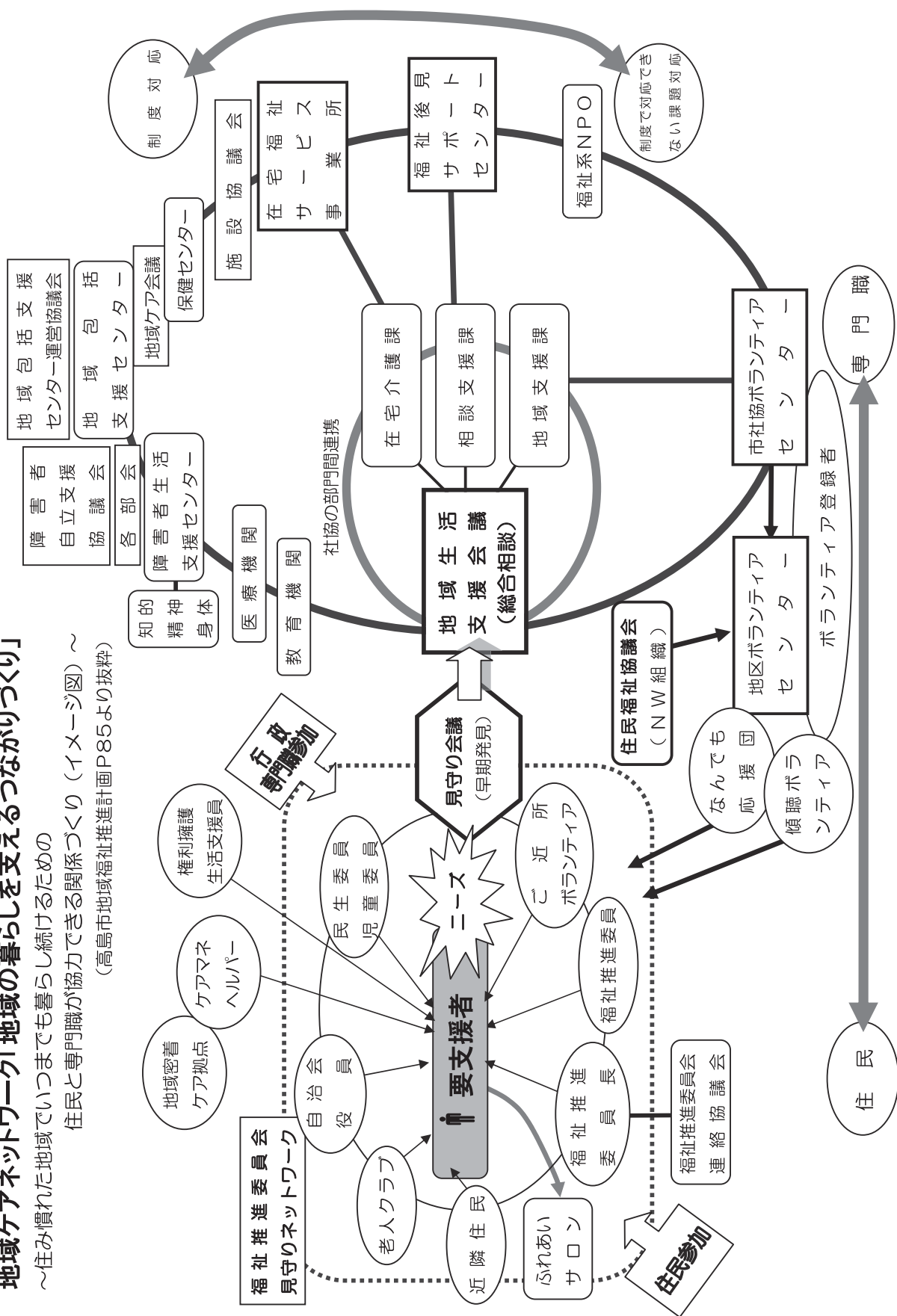
推進目標3に掲げた「地域ケアネットワーク」は、地域で暮らしづらさを感じている方が、住み慣れた場所での豊かな人間関係のもとで、いつまでも自分らしく暮らし続けることができるための、住民と専門職（行政や福祉事業所等）が協働した、地域生活支援のネットワークづくりです。

行政、専門職、そして、住民の力を結集して、「みんなが一人のために」力を出し合って、誰一人欠けることなく、心豊かな生活を実感できる仕組みづくりを進めていかなければなりません。



地域ケアネットワーク「地域の暮らしを支えるつながりづくり」

～住み慣れた地域でいつまでも暮らし続けるための
住民と専門職が協力できる関係づくり（イメージ図）～
（高島市地域福祉推進計画P85より抜粋）



福祉の三役さんの声(H23年度 住民福祉こんだん会より)



区長・自治会長さん



民生委員児童委員さん



福祉推進委員長さん

マキノ地域の主な意見

- 支援が必要な人に、どこまで関わっていいのか、わからない。
- 今後、小さな集落は、集落内だけの力では見守りが難しくなるだろう。小学校区単位でのしくみづくりも必要だと思う。
- 若者のひきこもりの問題も気になる。
- 今は大丈夫だが5～10年後を考えると心配。今から地域内で見守りのしくみを作っておく必要があると思う。

今津地域の主な意見

- 見守りを進めていくことは大切だと思うが、新しい取り組みとして実施していくのは、なかなか難しいのではないかな。
- サロンが恒例化してきたのは良いと思うが、来ていない人に対して働きかけができていない。
- 個人情報という言葉に、過敏に反応しすぎているところがある。
- こういった住民の取り組みが、きちんと引き継がれていくようにしていく必要がある。

新旭地域の主な意見

- 働きながら区の役員をするのは、荷が重い。
- 新たな事業をおこなうよりも、いまある取り組みを広げることからはじめたいと思う。
- 住民同士、顔の見える関係ができていない所が多いと思う。
- サロンに来ていない人が気になる。

毎年春に、おおむね小学校区単位で、区長、自治会長、民生委員児童委員、福祉推進委員長の皆様(私達は、福祉の三役さんと呼びしています)にご案内させていただき、地域の福祉活動について話し合う「住民福祉こんだん会」を開催しています。平成23年度は、見守りネットワークをテーマに話し合い、活発な意見交換が行われました。

朽木地域の主な意見

- 10年後の集落の維持が心配（担い手がない）。
- 日常生活の中で、電気がついているか、新聞がたまっていないかといった見守りをしている人は多いと思う。
- 「ほっといてくれ」という人ほど気になる。
- ひとり暮らしの方に何かあった場合の連絡先を知らない。

安曇川地域の主な意見

- 震災があってから、皆で助け合わないといけないという意識が高まっている。
- 各区の組長なら、たいていのことは把握できていると思う。その情報をどう共有するかが問題。
- 見守りのネットワークができると安心。しかしながら、区の役員はそれぞれ忙しく、すぐに取り組む余裕はないだろう。
- 集落に子どもが少ないことが心配。今は大丈夫でも、近い将来、必ず見守りのネットワークが必要になってくる。

高島地域の主な意見

- サロンの参加者は女性がほとんどで、男性の居場所が無い。
- 老人クラブや婦人会がなくなってきている。
- 5年後10年後を考えると見守りの仕組み作りは賛成！
- 同じ組の人のことなら分かるが、離れた組の人のことは分からない。特に新しく住民になった方の情報がわからない。